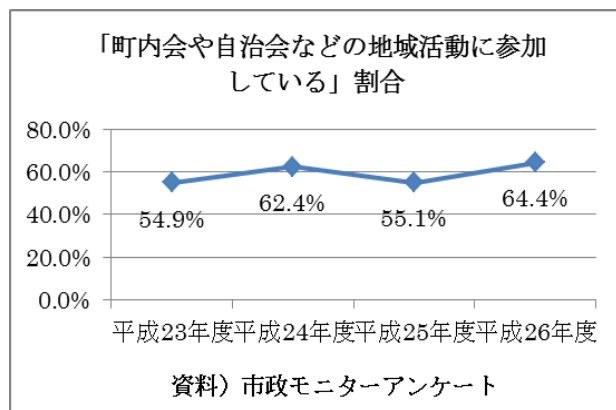
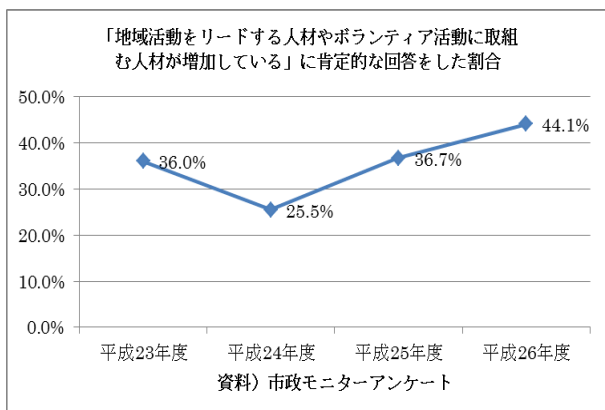
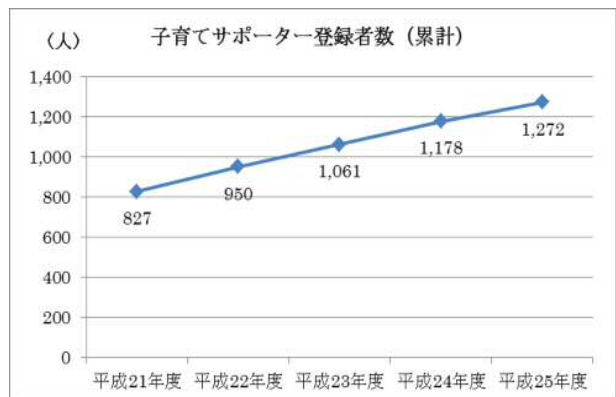
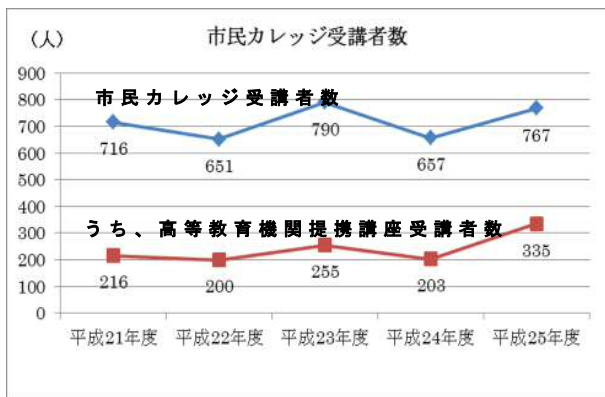


【施策3】 地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

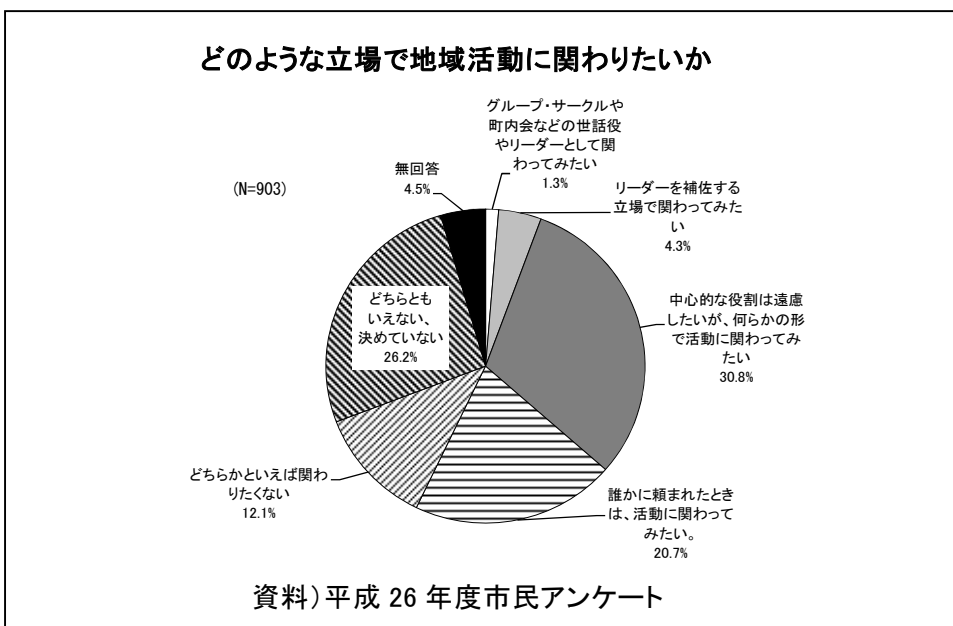
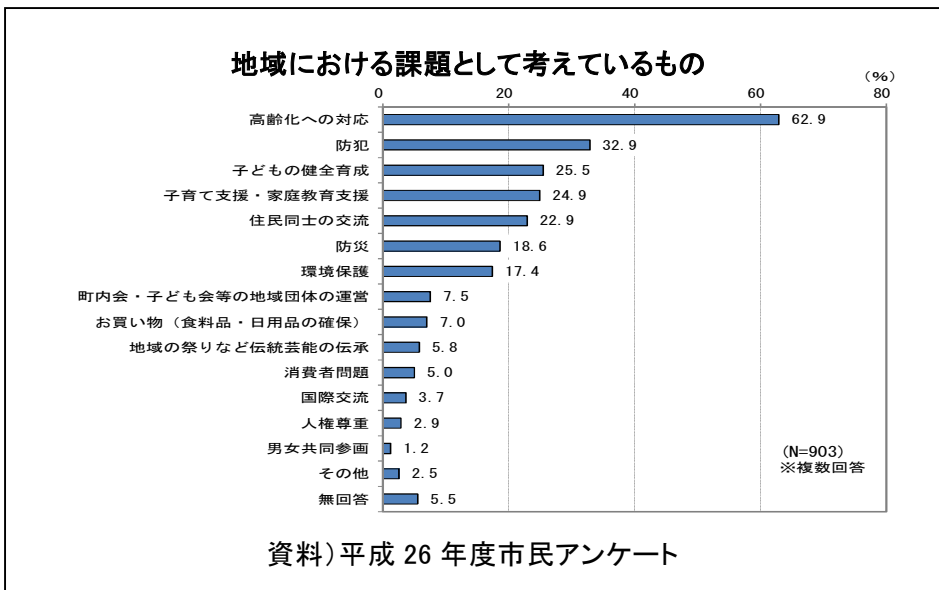
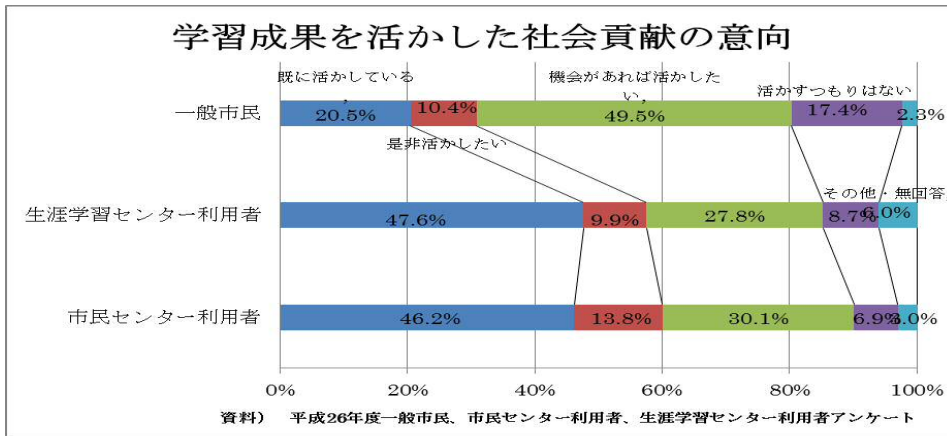
これまでの成果

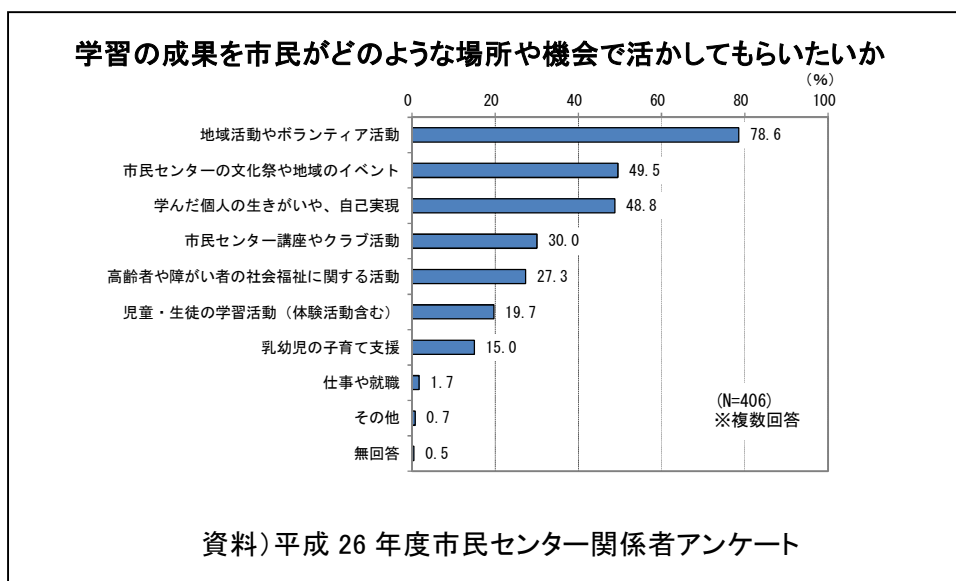
- 地域課題が多様化するなかで、地域住民の福祉を向上させるためには、課題解決に向けた市民の主体的な取組が不可欠になっています。そのため、地域活動をリードする人材育成と人材が活躍できる仕組みづくりや学んだ成果を活かす場の創出に取組みました。
- 「北九州市民カレッジ事業」では、まちづくり・人材育成系の講座の充実に取り組むとともに高等教育機関提携講座等の受講者数が拡大し、また地域における子育てを支援する「子育てネットワークの充実」に向けては、子育てサポーター登録者数が拡大しています。
- また、平成24年度から、団塊の世代が地域貢献するためのきっかけづくりとして「地域デビュー支援事業」を実施するなど市民主体のまちづくりの促進に努めてきました。



市民意識

- 市民の学習成果を活かした社会貢献の意向について、一般市民では「すでに活かしている」と答えた方は20%程度に留まりましたが、「ぜひ活かしたい」「機会があれば活かしたい」と答えた方はあわせて6割近くに達し、十分には活動に至っていないものの、意欲は高いといえます。
- また、市民センター利用者と生涯学習センター利用者では、いずれも「すでに活かしている」が5割近く、「ぜひ活かしたい」「機会があれば活かしたい」が40%前後となっており、学習とその成果の活用が徐々に進んでいます。
- 学習成果を活かしたい分野については、「まちづくり・地域づくり・市民活動等に関する活動」が最も多く、住んでいる地域への貢献意欲が高い状況にあります。
- 地域における課題として捉えているのは、「高齢化への対応」が最も多く、次いで「防犯」、「子どもの健全育成」、「子育て支援・家庭教育支援」となっています。
- 地域への関わり方としては、何らかの形で活動に関わる場合に中心的な役割を担う意向はあまり多くありません。
- 市民センター館長等からは、学習の成果を活かしてもらいたい機会や場として、「地域活動やボランティア活動」、「市民センターの文化祭や地域のイベント」、「個人の生きがいや自己実現」などの意向があります。





《 今後の課題 》

- 地域の問題は地域住民自身の自覚や努力なしには解決できません。住みやすいコミュニティをつくるため、地域のことは地域が自ら解決していこうという機運を醸成し、主体的に地域課題に取り組む人材の育成が必要です。
- 団塊の世代には、培った知識やノウハウを地域に還元し、地域づくりのリーダーとしていかに活躍していただくかが重要な課題になっています。「地域デビュー支援事業」等により市民センターに集う機会を創出し、集った人たちが地域活動に参加するよう促していくことも大切です。
- 地域には企業や学校、医療機関、福祉施設など様々な機関や施設があります。また地域住民の中にも、専門的な知識や技能を持つ方がたくさんいます。地域から人材を掘り起こし、能力を持った人たちが第1歩を踏み出せるよう、そのきっかけづくりを考える必要があります。